

アタッキン®水和剤

ATTACKIN

登録番号 第13833号

種類名 ストレプトマイシン・チオファネートメチル水和剤
streptomycin・thiophanate-methyl

殺菌剤分類 25, 1

性 状 類白色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 4年

有効成分 ストレプトマイシン硫酸塩 18.8% (ストレプトマイシンとして 15.0%)
チオファネートメチル 50.0%

毒 性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包 装 (100g×25袋)×4箱、500g×20袋

■特 長

1. 多くの病害に効果の高いトップジンMと細菌性病害に有効なストレプトマイシンの混合剤で、より効率的な防除が期待できます。
2. 作物への浸透が強く、優れた殺菌力を示し、予防・治療効果ともに優れています。
3. 細菌性病害と糸状菌による病害の同時防除剤として適しています。

最新の登録内容、
SDSはこちら

■適用病害名及び使用方法

(2024年10月7日現在)

作 物 名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	ストレプトマイ シンを含む農薬 の総使用回数	チオファネート メチルを含む農 薬の総使用回数	使用方法
ばれいしょ	黒あざ病 黒あし病	40	— 種いも 100kg当り 2.5～3ℓ	植付前	1 回	5 回以内 〔種いもへ の処理は 1 回以内〕	5 回以内 〔種いもへ の処理は 1 回以内〕	5～10秒間 種いも浸漬
	そうか病	40～60	—					種いも散布
								5～10秒間 種いも浸漬
う め	かいよう病 黒星病	800～ 1,000	200～700 ℓ/10a	収穫90日 前まで	2 回以内	2 回以内	6 回以内 〔塗布は3回以内、 散布は3回以内〕	散 布
も も	せん孔細菌病 黒星病	1,000		収穫60日 前まで			10回以内 〔塗布は3回以内、 休眠期の散布は 1回以内、生育期 の散布は6回以内〕	
キャベツ	菌核病 黒腐病	1,500	収穫14日 前まで	3 回以内			3 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、は種 後は2 回以内〕	
はくさい	軟腐病 白斑病	1,000						
たまねぎ	軟腐病 灰色腐敗病	800	100～300 ℓ/10a	収穫7日 前まで	5 回以内	5 回以内	7 回以内 〔種子への処理は 1 回以内、苗根 部浸漬は1 回以 内、無人航空機 散布は3 回以内、 散布は5 回以内〕	
こんにゃく	乾腐病 腐敗病	1,000	—	貯蔵前 又は 植付前	1 回	6 回以内 〔種いもへ の処理は 1 回以内〕	1 回	1時間 種いも浸漬
		30	平置きした 種いも1m ² 当り150mℓ	植付前				種いも散布

作 物 名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	ストレプトマイ シンを含む農薬 の総使用回数	チオファネート メチルを含む農 薬の総使用回数	使用方法
チューリップ	球根腐敗病 かいよう病	球根重量の 0.2～0.5%	—	貯蔵前 又は 植付前	1 回	1 回	5 回以内	球根粉衣

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. ボルドー液及び石灰硫黄合剤などアルカリ性の強い薬剤との混用はさけてください。
3. 本剤の連続使用によって、薬剤耐性菌が出現し、効果の劣るおそれがあるので、過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用してください。
4. チューリップの球根消毒に使用する場合、発根後に処理すると薬害をおこすおそれがあるので、根が動き出す前に処理して植付けてください。
5. 薬害として黄白色の斑点が散布した葉に現れることがあります。これは植物の種類、環境により差があり、特に高温多湿時におこりやすいですが、通常一週間位で消失してしまうので作物に対する実用上の影響は認められません。但し、はくさいについては高温時又は幼苗時には使用しないでください。
6. キャベツに対しては、薬害を生じやすいので、高温条件下での連続散布はさけてください。
7. ばれいしょの種いも消毒に使用する場合下記の事項に注意してください。
 - (1) 萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるので、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には萌芽や生育遅延が助長されるので、春先の気温の低い地域では注意してください。
 - (2) 浸漬処理の場合、浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守してください。
 - (3) 散布の場合は、種いもを床等に十分に広げ、種いも 100kg 当たり 2.5～3ℓ の割合で種いも全体が均一にぬれるようにていねいに散布してください。
 - (4) 薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延などの薬害を生じるので風通しのよい場所ですみやかに乾燥させてください。
 - (5) 種いもを切断する場合は、処理した薬液が十分乾いてから行ってください。
8. 本剤で処理した種いもは食糧や動物飼料に用いないでください。
9. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。
10. 本剤を使用した場合には、ペノミルを含む剤を使用しないでください。ただし、種子への処理、種籾への処理及び塗布処理は除きます。
11. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意

12. 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
13. 使用の際は、防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
14. 作業時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯してください。
15. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

水産動植物への影響：水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残粉及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封して、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

【農薬をご使用の際は】

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。